

東海地区本部第38回定期大会開催



奥田委員長



東海地協鎌田議長

9月24日(日) 名古屋市内において開催し、冒頭、執行部を代表して挨拶に立った奥田委員長は、『9月も終わりに近づいてきたが残暑が厳しく、また輸送障害が多発している中、日頃から組合活動に尽力している組合員に感謝申し上げます。JR産業はコロナ禍によって大きく影響を受けたが、各旅客会社はコロナ前の水準に戻りつつあり持ち直してきている。一方、JR貨物の経営状況に目を向けると、今年度の事業計画とは乖離があり、下半期に相当の頑張りを見せないと今年度も赤字となってしまう、この状況を真摯に受け止め、労使が一体となって収入確保に向けて取り組まなければならない。労働条件では、著しい物価上昇により、早期に賃金改善を図らなければ組合員の生活に相当の影響を及ぼしてしまう。2023年末手当交渉・2024春闘では本部と共に闘い、賃金改善に取り組んでいく。安全については、依然として一歩間違えれば人命に関わる事象が発生しており、グループ会社も含め組合員全員が一丸となり、安全最優先の取り組みをしていただきたい。組織については、東海指令との意見交換会を行い、大変有意義な機会となったが、ただ、これで終わるのではなく、組織拡大につながるよう引き続き取り組んでもらいたい。政策課題では2024問題・アポルール改定・青函共用問題・鉄道強靱化等、課題は山積しているがJR連合や本部と連携し取り組んでいく』と述べられました。

来賓挨拶では、JR連合東海地協鎌田議長、中央本部辻村委員長、各々よりご挨拶を頂き、辻村委員長からは、会社の情勢・安全課題・政策課題等について述べて頂きました。

その後、執行部より今後の活動方針を提起し、質疑では人事制度・労働条件・組織問題等の意見が出され集約答弁を行い、役員改選では、橋爪書記長が退任し、新たに小山副委員長、梅本書記長が選出され執行部体制を確立し、最後に奥田委員長の「団結ガンバロー」で閉会しました。